

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターあゆむ いいで（放課後等デイサービス事業）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月24日		～ 令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和7年1月24日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者との情報共有を大切にしている。送迎時や何かあった際にも気兼ねなく話ができる体制を構築して、保護者にも伝えている。	・本人のエンパワメントに着目し、今達成できていることを中心に保護者に伝える。	・ネガティブな報告を伝える時も、保護者がよりよく考えていけるような伝え方を、日々のOJTで身に付ける。
2	・活動内容のプログラムの提示ではなく、「子ども達が今日は何をしたいのか」に力点を置き、活動の展開を見守り助ける支援を心掛けている。	・子ども自身が当日取り組む活動の見極めに時間を要す場合も多くあるため、適切に声掛けをして活動に取り組めるように対応している。	・楽しんで活動できるメニューを準備し、すぐ対応できるようにしておく。
3	・地域の資源を多く活用したり地域住民とのやり取りを大切にしながら、支援の組み立てに活用している。	・ご近所との交流、地域施設の活用、散歩コースでの地域とのふれあいを大切にしている。	・地域との関係性をよりよく保つために、お便り等の配布を継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・外部の第三者評価をしていない。	・法人として今後取り組んでいく予定である。	・その必要性を検討する。
2	・法人のホームページをうまく活用できていない。	・操作性等の課題が大きく、今後検討課題と考えている。	・代替方法として、定期的なお便りの発信を継続する。玄関先にも掲示する。
3	・支援プログラム、放課後等デイサービスガイドラインの周知が適切にできていない。	・支援プログラムを令和6年度内に法人あゆむのホームページで公開する予定である。 ・ガイドラインについては、職員間で再度共有する。	・支援プログラムについては、モニタリング等を活用し保護者にお知らせする。 ・ガイドラインは、時間を設定し職員間での読み込みを行う。